

2023年6月17日(土)

第1会場

特別講演 | 特別講演 | [特別講演1] 近未来の学会に託す老年歯科医学の道 一老
会員ですが心は青春真ただ中一

特別講演1

近未来の学会に託す老年歯科医学の道

一老会員ですが心は青春真ただ中一

座長：羽村 章（日本歯科大学生命歯学部高齢者歯科学 教授）

12:45 ～ 14:15 第1会場 (1階 G4)

[SL1] 近未来の学会に託す老年歯科医学の道

一老会員ですが心は青春真ただ中一

○米山 武義¹（1. 米山歯科クリニック）

特別講演 | 特別講演 | [特別講演2] 未来の在宅医療～歯科診療のあるべき形（か
たち）について～

特別講演2

未来の在宅医療～歯科診療のあるべき形（かたち）に
ついて～

座長：菊谷 武（日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリ
ニック 院長・教授）

15:10 ～ 16:30 第1会場 (1階 G4)

[SL2] 未来の在宅医療～歯科診療のあるべき形（かたち）に
ついて～

○市橋 亮一¹（1. 医療法人かがやき 総合在宅医療クリ
ニック）

特別講演 | 特別講演 | [特別講演1] 近未来の学会に託す老年歯科医学の道 一老会員ですが心は青春真ただ中一

特別講演1

近未来の学会に託す老年歯科医学の道

一老会員ですが心は青春真ただ中一

座長：羽村 章（日本歯科大学生命歯学部高齢者歯科学 教授）

2023年6月17日(土) 12:45 ～ 14:15 第1会場 (1階 G4)

[SL1] 近未来の学会に託す老年歯科医学の道

一老会員ですが心は青春真ただ中一

○米山 武義¹（1. 米山歯科クリニック）

(2023年6月17日(土) 12:45 ~ 14:15 第1会場)

[SL1] 近未来の学会に託す老年歯科医学の道 —老会員ですが心は青春真ただ中—

○米山 武義¹ (1. 米山歯科クリニック)

【略歴】

昭和54年 日本歯科大学歯学部卒業
昭和54年 同大学助手 (歯周病学教室)
昭和56年 イエテボリ大学歯学部留学
昭和61年 日本老年歯科医学研究会発足時世話人
平成2年 米山歯科クリニック開業
平成9年 歯学博士 (奥羽大学)
平成10年 日本老年歯科医学会 理事
平成16年 医学博士 (浜松医科大学)
平成20年 日本老年歯科医学会 指導医
平成24年 日本老年歯科医学会 専門医
平成26年 第66回保健文化賞 受賞
令和4年 日本歯科医学会会長賞 受賞

令和5年4月現在

浜松医科大学 東京医科歯科大学 非常勤講師
日本歯科大学生命歯学部 臨床教授
日本歯科大学新潟生命歯学部 客員教授

【抄録 (Abstract)】

日本老年歯科医学会の前身である日本老年歯科医学研究会の発起人の一人として本会に入会させていただいてから、早いもので37年が経過しました。その間、髪の毛は薄くなり、最近では鏡をまともに見られなくなりました。一方、気持ちはまだまだ青春で新しい研究の種を見つけようとしている自分がいます。むしろ前期高齢者であるからこそ高齢者の心や身体変化を臨床や研究活動に活かせるかもしれないと真剣に考えるようになりました。

私が高齢者歯科医療に出会ったのは、24歳の時、友人の紹介で訪問した特別養護老人ホーム御殿場十字の園でした。スウェーデン王立イエテボリ大学での2年間の留学を経て延べ44年間その老人ホームで非常勤職員として在籍し、今では施設内で一番の長老になってしまいました。この施設との出会いは、私に老年歯科医学の扉を開かせてくれました。そして死にゆく多くの方と接し、求められる高齢歯科医療の姿とは何かを現場の中で学ばせていただきました。それは優しさであり、納得できる人生の演出に徹しなさいというメッセージでした。

これまでの人生を振り返って、幸せだったなと思うことがあります。それは口腔衛生管理と誤嚥性肺炎発症の関係性を暗示する事象に出会ったこと、そしてこの関係性を科学的に検証するチャンスを与えてくださった東北大学名誉教授 佐々木英忠先生との出会いでした。さらに吉田光由先生をはじめ数多くの研究者との出会いでした。私が施設に通い始めた頃は入所者総数107名のうち20名前後の方が毎年お亡くなりになり、その30%から40%が老人性肺炎によるものでした。しかしその後、施設内で口腔健康管理 (口腔衛生管理) が徹底するようになって肺炎でお亡くなりになる方が著しく減少し、老衰を死因とする方が相対的に増加しました。同じ施設に長年関わることで、口腔衛生管理の重要性和安全に口から食べることに重きを置く支援体制の重要性を実感しております。

今回、大会長である菊谷武先生から貴重な発言の機会を与えていただき、「口腔健康管理と誤嚥性肺炎予防」の過去・現在・未来について、そして国民の視点から日本老年歯科医学会に期待するささやかですが大切な事項をお話させていただきたいと思います。宜しく願いいたします。

特別講演 | 特別講演 | [特別講演2] 未来の在宅医療～歯科診療のあるべき形（かたち）について～

特別講演2

未来の在宅医療～歯科診療のあるべき形（かたち）について～

座長：菊谷 武（日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長・教授）

2023年6月17日(土) 15:10 ～ 16:30 第1会場 (1階 G4)

[SL2] 未来の在宅医療～歯科診療のあるべき形（かたち）について～

○市橋 亮一¹（1. 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック）

(2023年6月17日(土) 15:10 ～ 16:30 第1会場)

[SL2] 未来の在宅医療～歯科診療のあるべき形（かたち）について～

〇市橋 亮一¹ (1. 医療法人かがやき 総合在宅医療クリニック)

【略歴】

1973年愛知県出身、内科医、病理医、在宅専門医 名古屋大学医学部卒業後、名古屋第二赤十字病院（血液内科）などを経て、2009年に岐阜県内で初の在宅医療専門クリニック「総合在宅医療クリニック」を開設。現在は、在宅医療専門の医科歯科クリニックとして、スタッフ75名（医師21名、歯科医師2名、歯科衛生士2名、管理栄養士2名、言語聴覚士1名など）で、累積約3000名の患者、1600名の自宅看取りを支えてきた。2021年には医療的ケア児のための医療型短期入所「かがやきキャンプ」、2022年5月には2拠点目の名古屋市に「総合在宅医療クリニック名駅（めいえき）」を開設。

受賞歴：2019年「グッドデザイン賞（地域づくり部門）金賞」「ホワイト企業大賞」「医療福祉建築賞」

著書：「がん患者のケアマネジメント ― 在宅ターミナルをささえる7つのフェーズと21の実践」（中央法規）、「在宅医ココキン帖」（へるす出版）

【抄録（Abstract）】

2040年をピークに、死亡死者数の減少が見込まれる日本の医療提供体制は、次の30年で完全に違う形に移行することが人口動態から予想される。主要な変化としては、

- ①病院から在宅医療への移行、施設で過ごす患者の増大
- ②大都市の医療ニーズの急速な増大、
- ③人口減少地域の医療過疎の急速な進行である。

以上の変化に対して医科クリニックが変化する中で、歯科クリニックとの連携や協同はどのようにあるべきなのかを考える上での前提条件になる原則を指摘しつつ、「患者さんや家族のためになる」プラクティスをどのように行っていくのが良いのかを自院での活動を通じての実際を共有する。また、当院が多数の歯科クリニックとの連携を通じて考えた「歯科と医科の連携への10のステップ」を共有し、今後各地域で展開される歯科診療に貢献できるようにしていきたい。

以下10のステップをあげる。

- 1 食べることができるようになった「成功例」を見える化する
- 2 まず、口腔カンジダ（紅斑性カンジダ）治療で、実力を伝える！
- 3 在宅をやる医師に「簡単な教育のためのピラ」をつくる 医科に刺さる講義：食べなくても活用！義歯で3割うまいく？（口腔環境との調和）「歯科の常識、医科の非常識」
- 4 歯科衛生士を半日貸し出す（口腔乾燥への対応）
- 5 講義をする：義歯がうまいかではない、どうやって「補装具として付き合うかだ・・・」的な講義
- 6 管理栄養士と連動するための方法
- 7 「いつでも食べることができるをめざす」ことの意味
- 8 診療と同じ時間に訪問を当てる（顔の見える関係）
- 9 食べれなくなってきたら、歯科介入が大事と伝える（食べているときも勝負、食べなくなっても勝負）
- 10 ACPをチームで働きかけるときのコツ